

住宅用火災警報器を設置しましょう



【問合わせ】 知多中部広域事務組合消防本部予防課 ☎ 21 - 1491

住宅用火災警報器は、火災の発生にすばやく反応し、大きな音や音声で居住者に火災を知らせることができます。令和3年5月に実施した知多中部管内の設置率調査では、約84%の世帯が住宅用火災警報器を設置しています。

まだ設置がお済みでない方は、家族の命や財産を守るため、早急に設置しましょう。すでに設置されている方は、定期的に作動確認をしましょう。

◇作動確認方法

ボタンを押す、またはひもを引いて作動確認します。音が鳴らない場合は電池切れか機器本体の故障です。

空気が乾燥して火災が発生しやすい時季を迎え、全国一斉に秋の火災予防運動（11月9日（火）～15日（月））が実施されます。火災は一人ひとりの心がけで防ぐことができます。大切な命、財産を守るため、火災予防に対する意識を高め、火災を未然に防ぎましょう。

◇住宅防火 いのちを守る 10のポイント

『4つの習慣』

- ①寝たばこは絶対にしない、させない。
- ②ストーブの周りに燃えやすいものを置かない。
- ③コンロを使うときは火のそばを離れない。
- ④コンセントはほこりを清掃し、不必要なプラグは抜く。

『6つの対策』

- ①火災の発生を防ぐために、ストーブやコンロ等は安全装置の付いた機器を使用する。
- ②火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を定期的に点検し、10年を目安に交換する。
- ③火災の拡大を防ぐために、部屋を整理整頓し、寝具、衣類及びカーテンは、防災品を使用する。
- ④火災を小さいうちに消すために、消火器等を設置し、使い方を確認しておく。
- ⑤お年寄りや身体の不自由な人は、避難経路と避難方法を常に確保し、備えておく。
- ⑥防火防災訓練への参加、戸別訪問などにより、地域ぐるみの防火対策を行う。



ごん吉くんレポート

～南吉よもやま話～

第57回 南吉の富士登山

新美南吉記念館では、令和4年1月10日（祝）まで企画展「南吉の旅」を開催しています。その中から今回は、新美南吉の富士登山をご紹介します。

南吉は安城高等女学校で教鞭をとっていた昭和14年7月21日～23日、4年生の有志たちと保護者、同僚の教師たちと共に富士登山をしました。初日は、源頼朝が狩の宿にした井出家の本陣跡と駒止の桜、白糸の滝を訪れました。宿の近くの富士山本宮浅間大社で、生徒の安藤澄子（あんどうすみこ）が「わあ、富士山だ！」と言うと、南吉は鳥居ごしに杵にはまったような富士山を見て、「あす登る山なんて、あんなに鳥居の中にはまるほど小さいんだぞ、ハハハッ」と白い歯を出して笑ったそうです。ところが22日、実際に登ってみると、写真の4合目に着いた頃には南吉はぐったりしていました。7、8合目辺りの石室に泊まり、翌日の8合目半辺りでは、大岩につかまってハアハア息をつく状態で、下りになってやっと元気を取り戻します。この旅で南吉は同僚の大村重由（おおむらしげゆり）や保護者らと共に旅の画帖「六根晴天」を描き、帰宅後には「句集 ふじ」をまとめています。



富士山大宮口登山道4合目（右端が南吉）

南吉は翌年、エドワード・ウィンパーの『アルプス登攀記』を読んだ際に、富士登山を楽しい思い出として回想しました。病弱な南吉にとって登山はかなり大変だったはずですが、だからこそ生きる喜びを噛みしめることができたのでしょう。

企画展では画帖や句集、同時期の地図や絵葉書などを展示し、この他にも南吉の旅をご紹介します。みなさん、一緒に旅行気分を味わってみませんか。

新美南吉記念館 三輪みなみ